

2010年秋、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が愛知県名古屋市の名古屋国際会議場で開催され、生物多様性保全の世界目標として「愛知目標」が採択されました。

本県はCOP10の開催地として「愛知目標」の達成に積極的に貢献していくため、「あいち生物多様性戦略2020」を2013年3月に策定し、多様な主体の連携により地域本来の自然環境を保全・再生して生き物の生息環境をつなぐ「生態系ネットワークの形成」などの先進的な取組を進めています。

また、国際社会に向けても、2016年8月に生

物多様性保全に先進的に取り組む世界のサブナショナル政府(州・県レベルの広域自治体)と「愛知目標達成に向けた国際先進広域自治体連合」(以下「連合」という。)を設立し、本県がリーダーシップをとり、地域の取組から世界の生物多様性保全の流れをつくり出すことを目指して活動しています。(第2部第9章第3節4(2)をご参照ください。)

この特集では、「愛知目標」の目標年である2020年を間近に控え、近年、本県が行ってきた国際的な3つの取組について紹介します。

## 1 COP14への参加

2018年11月、生物多様性の主流化や愛知目標の進捗評価、次期世界目標の検討等をテーマとするCOP14がエジプトで開催されました。

連合はこの会議に向けて新たな声明をまとめ、本県及び連合メンバーが行ってきた先進的な取組やサブナショナル政府の役割の重要性について世界に向けて発信しました。

### (1) サブナショナル政府の共同声明の発表

国際自治体会議に先立つ11月22日、連合やサブナショナル政府諮問委員会<sup>\*2</sup>等のサブナショナル政府の諸団体が合同で記者会見を開き、共同声明「サブナショナル政府の連携の呼び掛け」<sup>\*3</sup>を発表しました。

大村知事は連合を代表して出席し、連合の声明として、生物多様性保全におけるサブナショナル政府の役割の重要性や、次期世界目標(ポスト愛知目標)についての議論にサブナショナル政府が参加すべきであることなどを発表するとともに、「サブナショナル政府の連携の呼び掛け」に対する強力な支持を表明しました。



記者会見で発言する大村知事

### COP14の概要

#### 【主催者】

生物多様性条約事務局、エジプト政府

#### 【開催期日】

2018年11月17日(土)～29日(木)

#### 【開催場所】

エジプト 南シナイ県 シャルムエルシェイク市

#### 【参加者】

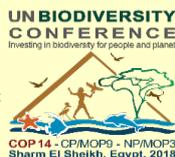
条約締約国(196の国と地域)等

#### 【主要テーマ】

- ・セクター内及びセクター間での生物多様性の主流化
- ・戦略計画2011-2020(愛知目標)の進捗の評価
- ・2050年ビジョンに向けた長期戦略の方向性及びポスト2020年の世界の枠組みづくり

#### 【主な会議】

- ・生物多様性条約締約国会議・カルタヘナ議定書会議・名古屋議定書会議
- ・国際自治体会議<sup>\*1</sup>(11月23日、24日)



COP14 - CP/MOP9 - NP/MOP3  
Sharm El Sheikh, Egypt, 2018

- ※1 COP10 で初めて開催された会議。あらゆるレベルの地方自治体が参加し、これまでの取組の成果や課題、今後の展望等について議論する。
- ※2 COP10 決議に基づき設置された、サブナショナル政府全体の意見を取りまとめる公式な仕組み。
- ※3 世界のサブナショナル政府に、サブナショナル政府間や締約国政府等との連携を呼びかける文書。

## (2) 国際自治体会議への参加・意見表明

11月23日、24日に開催された国際自治体会議では、3つのセッションに大村知事が参加し、意見を表明しました。

初日のハイレベル円卓会議では、「地方及びサブナショナルレベルにおけるインフラへの生物多様性の主流化」をテーマに議論が進められました。大村知事は、中部国際空港での環境配慮や、あいち森と緑づくり税などの事例をあげながら、「持続可能な開発目標（SDGs）の考えを踏まえて、生物多様性を守りながらインフラを整備しなければならない。地方政府には、そのことを実現する責任がある。」と発言し、議長から「力強いメッセージをいただいた。」との言葉をいただきました。



ハイレベル円卓会議で発言する大村知事

2日目のフォーカスセッションでは「COP15に向けた地方及びサブナショナル政府の活性化ロードマップ」をテーマに議論が進められました。大村知事は、連合の取組や共同声明について説明するとともに、今後2年間、愛知目標の総括とポスト愛知目標の枠組み検討の議論にサブナショナル政府が一体となって参画していく決意を表明しました。



フォーカスセッション会場

続くクロージング全体会合でも登壇した大村知事は、サブナショナル政府の行動の必要性を改めて強調し、会場の賛同を得ました。また、連合が提言した「次期世界目標の議論へのサブナショナル政府の参加」は、国際自治体会議の成果文書「シャルム・エル・シェイクコミュニケ」において締約国への要望として反映されました。



クロージング全体会合



国際自治体会議の主な出席者

### (3) 連合独自の活動

COP14 の開催期間中、連合の構成メンバーと、COP14 での活動と COP15 に向けた今後の取組について意見交換を行いました。

大村知事は、「COP13 で最初の声明を採択して以来、条約事務局や締約国へサブナショナル政府の役割の重要性を働きかけてきました。条約の補助機関会合において、連合からの提案が決議文に反映されるなど、成果は着実に上がっている。」と述べ、生物多様性条約事務局から、継続的な活動に対して称賛を受けました。

その後、各メンバーが愛知目標の達成に向けた最近の取組を発表するとともに、新たな共同声明に沿った行動への意思を確認しました。

また、COP14 会場内の展示ブースにおいて、連合の新たな共同声明及び連合メンバーの取組を展示し、来訪者に対して、生物多様性保全においてサブナショナル政府が果たしている役割の重要性を訴えました。



連合メンバー及び支援団体



連合展示ブース

## 2 アジア太平洋地域ワークショップの開催支援

COP14 では、COP15（2020年 中国）に向け、ポスト愛知目標を検討する特別作業部会を設置し、世界各地域でのワークショップや分野別のグローバルワークショップ等を通じて多様な主体による議論を進めていくことが決定されました。

この決定に基づく最初の地域ワークショップ「生物多様性ポスト2020目標アジア太平洋地域ワークショップ」が、2019年1月28日から2月1日まで名古屋国際会議場等で開催されました。

このワークショップには、条約事務局の代表や特別作業部会の2名の共同議長、アジア太平洋地域38カ国の政策担当者、国際機関、NGO等100名が参加し、愛知目標の達成に向けた取組状況やポスト愛知目標で考慮すべき点などについて活発な議論が行われました。

本県は、2016年に連合を設立以来、サブナショナル政府の役割の重要性について世界に向けて継続的に発信していることから、このワークショップに対しても会場の提供を始め様々な支援を行い、連合を代表してサブナショナル政府の立場からワークショップに参加しました。

#### 生物多様性ポスト2020目標 アジア太平洋地域ワークショップの概要

【日程】2019年1月28日（月）～31日（木）  
（エクスカージョン：2月1日（金））

【主催】生物多様性条約事務局、環境省  
（開催支援、エクスカージョン：愛知県）

【会場】名古屋国際会議場 等

【参加者】アジア太平洋地域の締約国の  
生物多様性政策担当者等 約100名

### (1) 開会セッション・交流会

ワークショップ冒頭の開会セッションにおいて、森田環境局長からの歓迎挨拶として、会議場内に飾られている COP10 で使われた木槌や COP10 以降の県の取組について紹介し、本県でのワークショップ開催の意義と、地元として歓迎する想いを伝えました。

また、初日のプログラム終了後にレセプションを開催し、愛知の食文化等で参加者を歓迎するとともに、県内で生物多様性保全に取り組む人たちとの交流の機会としました。

### (2) 県職員のワークショップへの参加

ワークショップでは、ポスト愛知目標に関して、どのような目標を立てるべきか、どのような要素を盛り込むべきか等について活発な議論が行われました。

本県からも、連合を代表して職員が参加し、本県の取組や連合の活動を紹介するとともに、生物多様性保全において地方自治体が果たす役割の重要性や締約国との連携等について有意義な意見交換を行いました。



ワークショップ

ワークショップの参加者（下）



### (3) 地元経済界と条約事務局との意見交換会

当地域の経済団体や企業の取組を条約事務局に理解していただくため、意見交換会を実施しました。



意見交換会関係者

### (4) 県主催エクスカーション

最終日にエクスカーションを実施し、当地域で行われている生態系の保全・再生の活動をワークショップ参加者に体感していただきました。

〔視察先〕

- ① コースA（参加者 18 名）
  - ・トヨタ車体(株)「刈谷ふれ愛パーク」
  - ・トヨタ自動車(株)「トヨタの森」
- ② コースB（参加者 19 名）
  - ・出光興産(株) 愛知製油所内
  - ・三五コーポレーション(株)「ECO35」
  - ・熱田神宮の森



「トヨタの森」エクスカーション（上）

### 3 海外自治体との学生交流

本県は、連合の活動等を通じて関係の深い韓国・江原道、中国・江蘇省、ブラジル・サンパウロ州との間で、それぞれ個別の協定を結び、環境分野における連携・交流を進めています。

この協定に基づき、次代の担い手を育成するため、2018年、韓国・江原道の大学生を本県に受け入れ、県内の大学生との交流や本県の自然環境保全の取組の視察を実施しました。また、2019年は本県の大学生を中国・江蘇省及び韓国・江原道へそれぞれ派遣し、お互いの生物多様性保全の取組を学び合うプログラムを通じて交流を深めました。

#### (1) 韓国・江原道からの学生受け入れ

2018年8月に江原道の大学生4名を、両自治体の交流事業として受け入れました。

学生達は環境局を訪問した後、愛知教育大学で生物多様性に関する講義を聴講し、また、県内大学生とともに豊田市内の湿地で生物調査や意見交換を行うなど、学生同士の交流を深めました。



湿地での生物調査

#### (2) 中国・江蘇省への学生派遣

愛知県内の大学生5名が、2019年8月、中国・江蘇省を訪問しました。

学生達は、まず江蘇省生態環境庁を訪問し、江蘇省で行われている生物多様性保全に関する

政策や取組を聞いた後、愛知県での状況や取組等について自身が調べた内容を発表し、意見交換を行いました。

また、南京農業大学や南京師範大学を訪問し、それぞれの大学での研究について聴講したり、貴重な標本を見学した後、学生同士の質疑応答や議論が行われました。



昆虫標本室で意見交換する学生

さらに、南京市の北東に位置する<sup>えんじょう</sup>塩城市内の自然保護区にてタンチョウやシフゾウなどの希少な動物を身近に観察し、湿地の成り立ちや動物の保護政策について学びました。



自然保護区内のタンチョウ

#### (3) 韓国・江原道への学生派遣

愛知県内の大学生5名が、2019年9月、韓国・江原道を訪問しました。

学生達は、まず江原大を訪問し、江原道の自然に関する講義や学生による調査研究の発表を聴講し、愛知県での状況や取組について発表した後、意見交換や議論を行いました。



江原大学の学生と県からの派遣学生

その後、江原道庁みどり局を訪問し、江原道が行っている生物多様性保全に関する取組などについて話を聞きました。また、江原大学の演習林を訪問し、希少植物を保全する植物園を見学した後、生物多様性や環境問題を楽しみながら学ぶためのツールを体験しました。



植物園で話を聞く学生

#### (4) 成果

参加した学生達は皆、交流事業を通じて新たな知識を得たり体験をして、自国とは異なる様々な活動や考え方を学びました。今後、生物多様性保全に向けた彼らの活躍が期待されます。

今後も学生の相互訪問を継続的に行い、次代を担う人材の育成を通じて生物多様性保全の主流化を目指します。

## 4 今後に向けて

2020年は「愛知目標」の目標年です。1月には環境省や名古屋市と共同で「あいち・なごや生物多様性 EXPO」を開催し、この特集で取り上げた国際連携を含めた取組の成果を取りまとめるとともにさらなる行動促進を図っていきます。

また、2020年の1年間を通じて、地域の皆様と連携し、「つながり ひろがる 生物多様性の輪」をテーマに統一ロゴマークの下、各地で生物多様性に関する事業・イベントを展開し、県内の生物多様性保全に対する気運を盛り上げていきます。



あいち・なごや生物多様性 2020 ロゴマーク

併せて、国際連携で得られた国際社会の動向や海外の取組などに関する知見を活かして、SDGsの実現に資する新たな生物多様性戦略の検討を進めます。